

- 明治 42 年 (1909) 土岐郡下石町に生まれる。本名 知治
- 大正 14 年 (1925) 多治見工業高等学校卒業。井深捨吉校長、岐阜県陶磁器試験場の加藤土師萌の薫陶を
16 歳 うける。
- 昭和元年～ 高校卒業以後、石炭窯を築き、下石で最初の色釉の焼物を手掛ける。
不慣れな酸化炎焼成も試行錯誤を重ね完成させる。
- 昭和 7 年 (1932) 荒川豊蔵を介して、カルピス社のコーヒー飲料カップの容器製造の依頼を受ける。
23 歳 北大路魯山人より蓋物の器を受注。
- 昭和 12 年～ (1937) 商工省工芸展覧会にて3回入選。
- 昭和 16 年 (1941) 日展入選。美濃における官展入選者は、加藤土師萌・加藤幸兵衛、水野愚陶に次いで
32 歳 4人目の快挙。
12月8日、第二次世界大戦勃発。
- 昭和 17 年 (1942) 下石町会議員就任。
- 昭和 18 年 (1943) 技術保存工芸品統制規定により「技術保存資格者」となる。
34 歳 荒川豊蔵、加藤幸兵衛、水野愚陶、松山吉一、等と五風会結成。
- 昭和 19 年 (1944) 北九州田川地区に出向き、造り酒屋を改築して製陶所を興す。軍需省の指定工場にな
35 歳 り、井・皿・飯茶碗・湯呑等を生産。終戦後、帰郷。
- 昭和 22 年 (1947) 伝統工芸振興運動のさきがけともなる、日本陶磁振興会が設立され、美濃地域を担当
38 歳 した日根野作三と出会い、水魚の交わりが始まる。
- 昭和 23 年 (1948) 地元の同志で、「陶光会」を結成。東京等各消費地の問屋・デパート・取引先へ商品
39 歳 動向の市場調査に出向く。
下石陶磁器工業協同組合より、技術指導員に委嘱され、「陶画研究会」で活動。
- 昭和 25 年 (1950) 下石陶磁器工業組合理事長に就任。
41 歳 下石陶磁器工業組合陶交青年部を結成し、日根野作三、(沢田米造) 沢田痴陶人を講
師に迎える。
- 昭和 26 年 (1951) 私財を投じて、下石小谷地区に陶磁器研究所の建設着工。
- 昭和 27 年 (1952) 小谷陶磁器研究所完成。初代所長に就任。
43 歳 岐阜県産業功労賞受賞。
岐阜県文化財調査委員および土岐氏教育委員に就任。
- 昭和 30 年 (1955) 土岐市立陶磁器試験場、駄知町に設置。
46 歳
- 昭和 31 年 (1956) 岐阜タイムス工業賞受賞。
- 昭和 33 年 (1958) 土岐市立陶磁器試験場竣工、初代場長に就任。
49 歳
- 昭和 34 年 (1959) 逝去
50 歳

瑞浪陶磁資料館特別展 「美濃 陶磁の意匠」 安藤知山 日根野作三 沢田痴陶人
等が織りなすクラフトデザイン より